

## 会議要旨

会議の名称	令和7年度 第3回おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議	
日時	令和8年1月26日（月曜日）11時00分から11時55分まで	
場所	おいらせ町役場本庁舎 庁議室	
出席者等	委員	【出席者】（8人） 木村 紀子（副会長）、関 和洋、三浦 広宣、佐藤 豊、高田 雅史、 高村 太、松崎 理恵、大沼 可奈  【欠席者】（3人） 平井 太郎（会長）、榎 公彦、和田 茂憲
	事務局	政策推進課 課長 田中 貴重、課長補佐 川原 真栄子、主任主査 馬場 祐二
傍聴者数	0名	

### 1. 開会

※事務局の進行で開会。（11：00）

### 2. 会長あいさつ

※会長欠席により、省略。

3. 案件	
会長欠席により、木村副会長が代理で進行。	
(1) おいらせラボ 部員の決定について	
発言者	発言内容
事務局	<案件(1)について、会議資料2ページを説明> おいらせラボの部員について、立候補者4名(平井会長、木村副会長、松崎委員、大沼委員)に決定してよいか伺います。
木村副会長	質問はありませんか。
委員一同	なし
木村副会長	では資料のとおり、決定とします。

(2) おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和6年度指標(KPI)の達成度	
発言者	発言内容
事務局	<案件(2)について、会議資料3~8ページを説明>
木村副会長	前半部分の説明が終わりました。質問や感想はありませんか。
委員	空き家バンクについてですが、現在どのくらいの空き家が登録されていますか。
事務局	現在21件の物件登録がありますが、既に16件が契約、売約済です。
委員	物件登録数が残り5件だと、目標達成が難しいのではないかと思います。
事務局	町内には、まだ空き家バンクに登録されていない空き家が多くあります。その中には、相続が完了していない空き家や整理されていない空き家等、空き家バンクに登録できる状態ではない空き家が多いのではないかと考えています。No.9の空き家バンクを活用した世帯数は、空き家の新規登録した世帯数と空き家バンクを利用した世帯数の合計値となりますので、そのような物件を解消し、空き家バンクへの登録数を増やしていきたいです。
委員	空き家の相談や問い合わせが特に多い地域はありますか。
事務局	今年度は、特に多い地域はなく、均等に相談や問い合わせが来ています。しかし、空き家は町の南側の方が目立っているように感じています。
委員	空き家バンクは、どのように情報発信をしていますか。
事務局	町のホームページや全国向けのサイトで周知しています。
委員	町の空き家なので、町の広報紙等に掲載すると、登録数が増えるのではないかと感じました。
事務局	ありがとうございます。検討します。
委員	町のLINEについて教えてください。
事務局	町の公式LINEは、移住希望者向けや町外に住んでいる方への情報発信ツールとして使われています。その他に「移住ポータルサイト」や「おいぐら」でも町外向けに情報発信をしています。補足になりますが、No10「町移住ポータルサイトのアクセス件数」が今回減少した理由は、サイトを更新していた移住担当の地域おこし協力隊員が卒隊し、更新頻度が減少したためだと考えております。令和7年度は新たに宮隊員が着任し、サイトの更新頻度が増加したため、アクセス件数が増加する見込みです。

委員	どのような情報を掲載していますか。
事務局	移住者へのインタビュー記事や移住した宮隊員の暮らしや地域の話題等を掲載しています。
委員	No3の婚姻率3.4%ですが、これには子どもや老人も含まれていますか。
事務局	含まれています。婚姻率は、年間の婚姻件数を町の全人口で割り、1000をかけたものになります。結婚に係る指標として、全国的に婚姻率を設定する自治体が多いですが、当町では戦略策定時に婚姻率だと成果が分かりにくいという意見があり、No4の婚姻数を指標に追加しました。婚姻数のような実数だと増減が分かりやすいため、こちらも成果指標として、あわせて確認しております。令和6年度は婚姻数が増加傾向のため、良い傾向にあると感じています。
委員	No.12の年間観光客入込数ですが、おいらせ町は観光地が少ないように思っていたので、想像より多い数値に驚きました。これはどのような目的で来た方を数えているのでしょうか。
事務局	主に観光目的で来た方を数えています。この数値は商工観光課で算出しており、具体的にはハクチョウの家やアグリの里等の観光施設に来た方と百石まつりや下田まつり等の町のイベントに来た方を数えています。
委員	先ほどの婚姻率について、補足します。先ほど事務局から婚姻率よりも実数の婚姻数の増減の方を重要視しているとありましたが、実は出生率についても同じことが言えます。率は割り算のため、例えば期間合計特殊出生率では、分母である15～49歳までの女性が減ると、率が上がります。つまり、分母の若い女性の数が転出等で減ってしまうと、出生率が上昇してしまうため、出生率よりも実数である出生数の方が町単位としては重要です。人口問題の講演に参加した時に、出生率を市町村単位で競い合うことは日本国内では意味がない、率よりも数を増やす、維持することが重要であると聞きました。例えば、人口が1000人以下の村で、1～2人生まれれば、若い女性が少なくても出生率がぐんと上がってしまうため、実数を見ていかなければ、正確な成果を感じました。4ページのおいらせ町の人口動態の折れ線グラフを見ると、おいらせ町は出生数がほぼ横ばい、総人口もおいらせ町が誕生した平成18年からあまり減っていない、転出者が減っており、転入者は増えているのは県内ですごく特徴的な町であるとの見方が出来ます。
木村副会長	丁寧なご説明ありがとうございます。学校関係でも実数が大事な指標の見方の一つになっております。続いて後半部分の説明をお願いします。

事務局	<案件（２）について、会議資料 9～12 ページを説明>
木村副会長	後半部分の説明が終わりました。質問や感想はありませんか。
委員	漁獲金額の中で思い出したことがあります。移住した時にサーモンパーク、鮭のオブジェ、鮭のついたマンホール等、町内に鮭に関係したものを多く見かけることに気になっていました。以前は鮭に関連したイベントを町で実施していたと聞いていましたが、現在はどうなっていますか。
事務局	町では、以前サーモンパークで鮭まつりというイベントを実施していましたが、平成 30 年頃から鮭がとれなくなったことにより、鮭まつりが実施できなくなりました。このことは、町の漁業にも大きな影響が出ています。鮭がまたとれるようになった際には、観光客入込数や漁獲金額の回復も見込めると思われます。
木村副会長	おいらせ町の鮭まつりは有名で、県内でもこれを目当てに町に来ている方も多かったです。現在は、地球温暖化等の自然の影響で難しいかもしれませんが、鮭が戻ってきたときにはまた検討していただきたいです。No20、21 の百石高等学校の倍率ですが、1 倍を超えることは正直難しいです。町からも高校の魅力アップ事業として、支援や学ぶ機会をいただいております。校内ではすごく成果があると感じています。
委員	青森県内で志望倍率が 1 倍以上ある高校は、どのくらいありますか。
木村副会長	現在、志望倍率が 1 倍を超えている高校の方が少ないです。ほぼ県内全体で定員割れが起きている状況です。今後は高校再編に向け、定員の見直し等が行われるとまた状況が変わりますが、おいらせ町は子ども達の人数が多いため、地元の子もたちに入学者も増えてほしいです。百石高校の魅力アップを進めていきたいです。今年の第 1 回目の県内高校の出願倍率調査にて食物調理科の出願倍率が 1 倍を超えましたが、1 倍を超えると心理的に他の定員割れしているところに目標を変えてしまう生徒もいて、最終的には先日の 0.8 倍まで下がってしまいました。しかし、第 1 回目で 1 倍を超えたのも徐々にであったため、高校の魅力伝えることができたと思えました。普通科も頑張っていきたいです。
委員	百石高校の食物調理科は、全国の調理コンクールでも優勝や準優勝とすごい実績を残しています。昨年もイオンモール下田で実施したビオトープに高校生たちが協力してくれましたが、1 回だけではなく、定期的開催していくことで、地元スキームとなって、地元に残ってくれる人や U ターンで帰ってきてくれる人の増加につながるのではないかと思います。そして、地域と一緒に安らげる場所をつくっていくことは、本当にやりがいがあることだと感じています。そのようなビオトープ活動を去年始めたばかりですが、他に波及していくことで、百石高校の頑張りもあわせて情報発信できると考えています。

#### 4. その他

資料 12 ページのとおり、事務局から今後の日程を説明した。

#### 5. 閉会

※閉会する。(11:55)